

書評：Günter Kempcke: *Wörterbuch Deutsch als Fremdsprache*.  
Berlin/New York: Walter de Gruyter. 2000.

岡本 順治

## 0. 全体的印象

「外国語としてのドイツ語」を意識して作られた 2 冊目の辞書である Günter Kempcke の辞書 (以下, WDaF) が Walter de Gruyter から (かれこれ 1 年半前に出版の予告がされていたが) 2000 年になってようやく発売された。B5 版よりやや小振りだが厚さ 67mm のこの辞書は、重さがおよそ 2kg あり、見出し語数が約 2 万語で、1993 年に発売された Langenscheidt の辞書 (以下, LGDaF)<sup>1)</sup> と比べるとかなりサイズの大きな辞典である。活字の大きさの違いや行間スペースの違いもあるが、ページ数<sup>2)</sup> の若干の違いを意識すれば全体の記述量に大差はないと思われる。

辞書の真価を評価するのはかなりの時間と労力を要するが、本稿では限られた紙面の中でいくつかのチェックポイントを設けて記述内容を検討してみたい。

## 1. 何が新しいか：4つの新基軸

「外国語としてのドイツ語」を意識して作られた WDaF を、以下の 4 つの点で特徴づけることができる。

- 1) 単語ごとに IPA 準拠の発音記号を付したこと。
- 2) 外国語学習者のための広い意味での文法記述を充実させたこと。
- 3) 語彙の全体像の中で、特定の単語の意味がどのような語場 (Wortfeld) に属するかを記述したこと。
- 4) 例文を多く載せ、必要に応じてその意味が分かるような解説を付したこと。

具体的にまず形容詞 *heiter* の記述を見てみよう。

*heiter* [ˈhɑɪtɐ] <Adj.> **1.** <Steig. reg.> SYN 'fröhlich' (1.2)'; ANT ernst(1)/vorw. auf Personen bez./; ↗ FELD I.6.3: *jmd. ist ein ~er Mensch, hat ein ~es Gemüt; er war ~, wirkte ~; etw. stimmt jmdn. ~; ein ~es* (ANT verdrießliches 1) *Gesicht machen* **2.** <o. Steig; nicht bei Vb.> 'fröhlich stimmend' /auf Musik, Literatur bez./ *~e Musik; eine ~e Sendung; ein ~es Buch lesen; er liebt ~e Literatur; /in den kommunikativen Wendungen/ umg. iron. das ist ja ~* ('das ist ja nicht gerade erfreulich'.) *das kann ja heiter werden* ('das sind ja nicht gerade erfreuliche Aussichten, da steht ja noch Unangenehmes bevor')!; vgl. *vergnügli*ch(2) **3.** <Steig.reg., ungebr.; nicht bei Vb.> 'fast ohne Wolken und reich an Sonnenschein'; SYN sonnig (1.2); ↗ FELD VI.2.3: *~es Wetter, heute haben wir einen ~en Tag; morgen wird es ~ bis wolkig sein; bei diesem ~en* (SYN 'freundlichen 2') *Wetter können wir baden gehen ♣ erheitern, Heiterkeit – aufheitern*

<sup>1)</sup>LGDaF は、A5 版よりやや大きく厚さ 52mm、重さ約 1.2kg、見出し語数 6.6 万語を収録している。

<sup>2)</sup>WDaF が、1329 ページに対して、LGDaF が初版 1183 ページ、新版 1216 ページ。

上記の項目 *heiter* では、見出し語、発音記号、品詞に続いて3つの意味用法が区別されている。1.の <Steig. reg.> は、規則的な比較変化をするという情報、SYN 'fröhlich'(1.2) は *fröhlich* の (1.2) の意味が同義語であること、ANT 'ernst'(1) は反義語の表示である。興味深いのはその後の斜線で囲まれた説明で、/vorw. auf Personen bez./（「主に人間に関して」）という説明である。FELD I.6.3 が語場 (Wortfeld) の表示で辞書の後ろで確かめると、WORTFELD: I Der Mensch (人間) の 6. Psychische Prozesse (心的プロセス) の 3 Adjektive/Adverbien (形容詞・副詞) に分類されていることが分かる。I.6.3 の部分 (1263 ページ) には、*heiter* が太字で掲げられ、その下に 13 個の類義語形容詞が並んでいる。このようにすべての語義が原則的に説明される。*heiter* の 2. では、<o. Steig; nicht bei Vb.> となっているのでこの意味での比較変化はないこと、また副詞用法もないことが分かる。また、斜線部の説明によると、ここでの語義は「音楽や文学に関係する」。コミュニケーションな用法として、Das ist ja *heiter*. が皮肉の意味で捉えられ Das ist ja nicht gerade erfreulich. の意味であるとの説明もある。3. の語義には <Steig.reg., ungebr.; nicht bei Vb.> となっており規則的に比較変化はするものの普通は使われないこと、また副詞的用法はないことが示され、同義語は *sonnig* (1.2) で語場は VI.2.3 (感覚系の表現, 知覚表現, 形容詞・副詞) に分類されている。

このように形容詞の述語用法、付加語用法、副詞用法がどの語義において可能か、比較変化が特定の語義の場合可能か否かといった文法情報、斜線に囲まれた使用条件に関する一般的情報などが、特に外国語として学習する際には有用である。さらに、特定の語の語義が、語彙全体の中での位置づけが語場を通じて見通せる点はユニークな試みである。

## 2. いくつかの不満

しばらく使ってみて気づいた不満点を以下にあげる。

- 図、絵が多いが、LGWDaF と比べると、絵の中の構成部分に対しての説明語がほとんどない。LGWDaF 新版では、絵の部分に対応する単語を定冠詞付きで載せている (WDaF の Körperteil と LGWDaF の Mensch の絵を比較せよ)。
- 新語は期待できない。Anrufsbeantworter, E-mail, Homepage, Web-Seite, Handy, Schnittstelle など、それほど最新の語でなくとも見つからない。
- 分綴情報の欠如。見出し語が分綴で区切られていない。
- 分離前綴りに続く語の記述では、行を追い込んで記述を詰めて込んでいるので見づらい。
- 発音記号に関して :erlauben などの語頭の er- と Arbeiter などの語尾の -er をいずれも [ɐ] としているのは理解しづらい。
- 外国語としてのドイツ語辞書にしては、ドイツ語圏文化の情報が特別に考慮されているわけではない (Heurige, Zivildienst はもとより、Berlin のような地名、Berliner のような派生名詞もない)。

- 語場の情報が不完全。上の heiter の例では2.の語義が属する語場が分からない。Feder の3つの語義（羽根，ペン，ぜんまい）の内，語場が載っているのは「羽根」の語義だけで，しかも間違っている（II.4.1ではなくてII.3.1が正しい）。

### 3. むすび

初級ドイツ語から中級ドイツ語へとステップアップする際に独独辞典を使いこなすことが大きな助けになることは間違いない。昨今の英英辞典が大量のコーパスをもとに刷新されているのを見るにつけ，外国語としてのドイツ語辞典はまだまだ発展途上にあると言わざるを得ない。この Kempcke の辞書も，今後の一層の発展を期待したい。